

学校 / 教員評価分科会

学校 / 教員評価分科会は、昨年度の参加者の中から希望のあった5名（小中高の現職教員等）で構成されており、7月より月に1度程度オンラインで集まりながら議論を重ねてきました。今年度は、昨年度の成果をもとに話し合いを進めていくことに合意し、昨年度のフレームワーク（右表）を土台に評価項目および指標についてブラッシュアップすることを目標としました。話し合いの過程では、このフレームワークは、学校の取り組み全般についての評価項目及び指標となっていますが、学校運営と教員の指導方法の観点は異なるとの議論に至りました。そこで、今年度は「学校運営の評価項目と指標」と「教員の指導への評価項目」に分けて、それぞれ評価を考えていくとの結論に至りました。しかし本テーマに関しては未だ議論の途上にあり、今後の継続的な議論と成果の活用を目指しています。



分科会での議論の詳細

https://www.accu.or.jp/programme/project/school_faculty_evaluation/

■ 学校 / 教員への評価【フレームワーク】

学校 / 教員への評価項目および指標

本質を理解する力
■目標 / 目的が学校全体で共有されている。 ■校内の課題(現状)を理解することができる。 ■子どもの成長を捉えることのできる感性がある。 ■持続可能性の概念について知っている。 ■持続可能な開発のための教育(ESD)の意味を考える場がある。 ■カリキュラムと学校運営の両方にESDの意味を位置づけている。
つながる力
■学校外の人と信頼関係を構築することができる。 ■学校内の取組を社会に広げて考える。 ■ラーニングコモンズをつくる(学校を地域の学びの中心に据える)。 ■教員間でケアリングができている。
学び続け改善する力
■教員の学ぶ時間が確保されている。 ■時間にとらわれず自分の時間を自分でデザインすることができる。 ■子どもと共に学ぶことができる。 ■ライフワークバランスを整えることができる。 ■教育課程をESDの視点で捉えなおすことができる。
実践する力
■校内外でだれでも挑戦できる環境がある。

出典:『変容を捉え、変容につながる評価のカタチ』(ACCU 2021, P.61)

■ 参考資料、ウェブサイト (2022.2.10閲覧)

《文部科学省ウェブサイト》

平成29・30・31年改訂学習指導要領(本文、解説)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm
持続可能な開発のための教育(ESD)

<https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339957.htm>

OECD Future of Education and Skills ウェブサイト(英語)

<https://www.oecd.org/education/2030-project/>

OECD Education 2030 プロジェクトについて(日本語)

https://www.oecd.org/education/2030-project/about/documents/OECD-Education-2030-Position-Paper_Japanese.pdf

『ESDの学習指導課程を構想し展開するために必要な枠組み』(国立教育政策研究所,2013)

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/esd_leaflet.pdf

『Guide for the Effective Dissemination of the Asia-Pacific ESD Teacher Competency Framework』(岡山大学,2020)

<http://ceteesd.ed.okayama-u.ac.jp/pdf/200511.pdf>

発行日: 令和4年2月28日 ※記載している参加者の所属先は発行日時点のものです。

発行: 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 東京都千代田区神田神保町1-32-7F 出版クラブビル

TEL: 03-5577-2852 FAX: 03-5577-2854 URL: <https://www.accu.or.jp/>

デザイン・印刷・製本: 株式会社デザイン・モイ (アートディレクション/今泉明子、デザイン/高井美月 村田愛)

©ユネスコ・アジア文化センター2022 ISBN978-4-909607-11-9 Printed in Japan 禁無断転載・複製

このパンフレットは文部科学省「令和3(2021)年度ユネスコ活動費補助金」で作成されました。



便利な
Web版も!

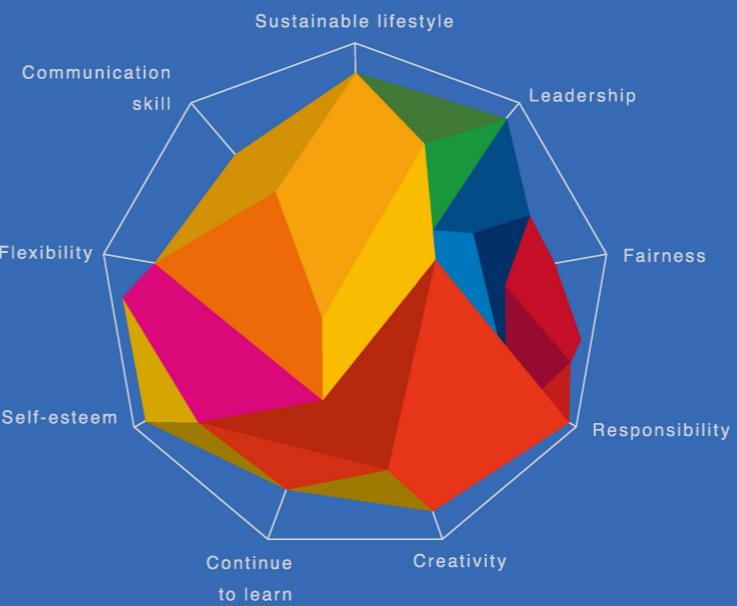
『変容につながる16のアプローチ
- SDGsを活かした学校教員の
取組 -』(2020)



『変容を捉え、変容につながる
評価のカタチ - SDGs時代を
生きる学校教員の知恵 -』
(2021)

変容を捉え、 変容につながる 評価のモデル

SDGs 時代を生きる学校教員からの提案



「変容」と「エンパワメント」を合言葉に、 SDGs 時代の教育に向き合って――

グローバル化により顕在化する様々な地球規模課題への危機意識の高まりとともに、SDGs(持続可能な開発目標)に示される価値観が広く認知されるようになりました。このような時代の流れの中、教育もまた変化を求められています。

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)では、ESD(持続可能な開発のための教育)に取り組む全国各地の学校教員および有識者の参加を得て、2019年度よりSDGs時代の教育のあり方を議論してきました。この3年間の歩みは、「持続可能な社会の創り手を育む教育」の本質に真摯に向き合う参加教員らの想いを結集し、一貫して子どもたち、そして教員や学校の「変容」と「エンパワメント」を軸に進むこととなりました。

1st year
カリキュラム・教材開発に焦点を当て、SDGs関連教材を用いた授業実践やSDGsの視点を取り入れたカリキュラムづくり、学校経営について、参加教員らの実践を持ち寄り、事例集としてまとめました。

2nd year
前年度の議論を通して見えてきた児童生徒の変容を捉え、促すために適した評価の形を、教員らのアクションリサーチをふまえてモデル手法として提示することに挑戦しました。事業の性質上、今回は単元・学期ごとの検証も可能な児童生徒への評価に重点を置き、発達段階に応じた評価方法や内容を提示できるよう、小中高の部会に分かれて取り組みました。なお、年度単位での検証が必要となる学校・教員評価については、手法開発に先立つ基盤の議論を深めることを重視しました。ここで示した評価手法はあくまで一例にすぎず、各学校の事情や教員の立場によってはそのまま適用することが難しい場合もあるでしょう。しかし、学校教員自らが目指すべき評価のあり方を模索し、実践知に基づいてこれらを作り上げたことの意義は、そのようなジレンマも含め徹底して現場目線で具体的な形にしてきた点にあります。本書を手に取ってくださった方々が自分の授業でも実践してみたい、あるいは学校で取り入れたいと思ってくださいと大変嬉しいです。

3rd year
前年度の議論を通して見えてきた児童生徒の変容を捉え、促すために適した評価の形を、教員らのアクションリサーチをふまえてモデル手法として提示することに挑戦しました。事業の性質上、今回は単元・学期ごとの検証も可能な児童生徒への評価に重点を置き、発達段階に応じた評価方法や内容を提示できるよう、小中高の部会に分かれて取り組みました。なお、年度単位での検証が必要となる学校・教員評価については、手法開発に先立つ基盤の議論を深めることを重視しました。ここで示した評価手法はあくまで一例にすぎず、各学校の事情や教員の立場によってはそのまま適用することが難しい場合もあるでしょう。しかし、学校教員自らが目指すべき評価のあり方を模索し、実践知に基づいてこれらを作り上げたことの意義は、そのようなジレンマも含め徹底して現場目線で具体的な形にしてきた点にあります。本書を手に取ってくださった方々が自分の授業でも実践してみたい、あるいは学校で取り入れたいと思ってくださいと大変嬉しいです。

◆ 小学校部会 参加者（敬称略）

棚橋 乾（全国小中学校環境教育研究会）
新宮 浩（奈良市立平城小学校）小野瀬悠里（新宿区立西戸山小学校）
齋津宏美（横浜市立市場小学校）熊谷久恵（宮城県気仙沼市立新城小学校）
阪井園子（神戸市立摩耶小学校）

小学校部会が目指したもの

ESDにおいても、学びをよりよくするために評価は欠くことができません。今回は特に自己評価を重視し、児童が活動を振り返って学びを深めることで、自己評価そのものが学習活動の一部となるよう考えました。評価手法としてループリック（※）を活用し、昨年度の成果（『変容を捉え、変容につながる評価のカタチ』13-14 頁 26 の評価要素）をもとに評価要素および評価の文言を改めて検討し、汎用性のあるループリックを作成しました。6月より月に1度開催した部会では、一つ一つの文言について参加者全員がお互いの考え方を出し合い、よりよいものになるよう練り上げてきました。本部会では特に、児童が評価段階の S から C の文言を知ることで次の目標を持つことができること、また、否定的な表現を避けて「児童の活動を応援するループリック」を作成することを目指しました。結果として、教師の「指導と評価の一体化」も図り、持続可能性の視点から実践（試行）できたと思います。参加者が実際に各自の授業で本ループリックを活用した実践報告が ACCU 公式ウェブサイト（頁下 URL および QR コード）に掲載されております。どうぞご参考ください。

※ ループリックに関しては、3通りの作成方法を部会内で共有しました。① 教師が作るループリック ② 教師と児童で作るループリック ③ 児童が作るループリックです。本部会は小学校低学年も対象としていたため、①を選択しました。理想は②、③のパターンですが、まずは①を通して児童が自分自身で分析して評価する姿勢、態度の基礎を育み、より児童主体の②、③のループリックへ進んでいくことが望ましいです。

子どもの変容を評価するときに大切にしたい「17の評価要素」 ※昨年度の26の評価要素をもとにした。赤字は今年度追加。

認知領域	① 持続可能性に関する知識・スキル習得 ② 情報収集・選択・活用力	③ 批判的思考力 ④ 意思決定力	⑤ 問題解決能力（探究する力） ⑥ メタ認知能力 ⑦ コミュニケーション能力
社会情動領域	⑧ 困難を乗り越える意思 ⑨ 人権や平和の価値 ⑩ 生物多様性の尊重	⑪ 社会的共生と公正さ ⑫ 自己肯定感 ⑬ 持続可能性への価値観	⑭ 主体性 ⑮ 協働性
行動領域	⑯ 持続可能なライフスタイルの実践	⑰ 地域や社会の活動に参加する力（社会参画力）	

【⑫ 自己肯定感について：参加者からの声】 ESDやSDGsの取組を通して、自己肯定感を高めるとはどういうことでしょうか？

現在の世界では移動する人口が年々増加していると言われています。自分にあった暮らし方を求めて都市または地方に移動する人、考え方の自由を求めて国を移動する人など様々でしょう。自分や家族の持続可能性のために移動しているといつても過言ではありません。そんな中、小さな子どもは自分の確固たる信念があるわけではなく、移動の前後で環境・習慣が違うことや学校教育を含めた生活スタイルの変化に戸惑うこともあります。実際、日本にも多文化背景で育つ子どもが近年増加傾向にあります。その子ども達が自分の背景（ルーツ）に自信をもてるような周りの環境作り、教育による働きかけや取組をしていくこともこの項目に当てはまると言えます。目の前の児童がありのままの自分自身を受け入れて、自己肯定感を保っているのかを定期的に評価して見守ることを提案します。

- ・17の評価要素
- ・教師向けループリック

https://www.accu.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/03/rubric_elementary.pdf



教師向けループリック ※教師が参考にする大人向けの文言になっています。本ループリックを活用する際には、各校の児童の実態に応じた児童向けの文言に書き直す

必要があります。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
評価要素	持続可能性に関する知識・スキル習得	情報収集・選択・活用力	批判的思考力	意思決定力	問題解決能力（探究する力）	メタ認知能力	コミュニケーション能力	困難を乗り越える意思	人権や平和の価値	生物多様性の尊重	社会的共生と公正さ	自己肯定感	持続可能性への価値観	主体性	協働性	持続可能なライフスタイルの実践	地域や社会の活動に参加する力（社会参画力）
S評価	SDGs や環境問題など持続可能な社会づくりの知識や調査スキルを身につけ活用している	課題を解決するために適切な方法で情報を取得し、選択して活用している	いつも他者の考え方を吟味したり、ほかの考え方や解決策に気づいて実践している	活動の方針、課題の調べ方、結果の解釈とまとめ方を、自ら判断して実践している	課題を発見し、調査計画に沿って活動し、結果から考えをまとめ、工夫して発信している	何が分かり、何が分かっていないのか、また自己の得意不得意をよく理解している	自他の考え方や気づきを尊重し伝え合い、考えを深めて地域や社会に発信している	困難な課題でも、他の意見を聞くなど工夫して取り組んでいる	人権や平和の尊さについて意識して、身近な人や社会や地域に働きかけている	動植物や生態系の大切さを理解し、環境保護を意識して活動や生活に取り組んでいる	地域や世界の人々の多様な生き方を理解し尊重すると共に、共生社会を意識して正しい行きを大切にして行動している	自分の考え方や取り組みを肯定的に捉え、自分の良さを発揮できるように意識して行動している	未来に向けて、より良い環境や社会をつくることがとても大切であると理解し、地域や社会で活動している	課題を自分ごととして捉えて、自ら積極的に話し合いや活動に参加したり、地域や社会で活動している	協力する大切さを理解し、友達や地域の方と話し合い、協力して活動している	省エネなど環境負荷を考え、環境に配慮して生活・行動し、身近な人に活動を広めている	地域や社会の活動に参加し、自ら積極的に活動している
A評価	持続可能な社会づくりの知識や調査スキルがある	課題を解決するために適切な方法で情報を取得している	他者の考え方を合っているか考えたり、ほかの考え方や解決策に気づいている	調べ方やまとめ方を自分で判断することができる	概ね、課題の発見、計画に沿った調査活動、結果のまとめと発信をしている	分かったことや何が分からぬのか、また自分の得意なことなどを理解している	自他の考え方や気づきを尊重し伝え合い、考えを深めて周囲の人や友達に発信している	困難な課題でも取り組んでいる	人権や平和の尊さについて意識している	動植物や生態系の大切さを理解し、環境保護を意識している	多様な生き方を尊重し、社会の中の正しい行きについて理解している	自分の考え方や取り組みを納得し、自分の良さを発揮できるよう心がけている	より良い環境や社会づくりが大切だと理解している	課題を自分ごととして捉えて、話し合いや活動に参加している	協力する大切さを理解し、友達や地域の方と一緒に活動することができる	環境負荷を考えて、環境に配慮した生活・行動をしている	地域や社会の活動に参加している
B評価	持続可能な社会づくりの知識や調査スキルが少しある	課題を解決するために適切な方法で情報を取得する努力をしている	他者の考え方を合っているか考えることがある	調べ方やまとめ方を自分で判断することがある	課題発見、調査活動、まとめと発信のうち、いくつかは行っている	分かったことを意識しているが、何が分からぬか明らかでないことがある	自分の考え方や気づきと共に、他者の考え方を理解しようとすることがある	困難な課題に取り組もうとしている	人権や平和の尊さについて意識することがある	動植物や生態系の大切さを理解し、環境を大切にしようとしている	多様な生き方や社会の中の正しい行きについて考えることがある	自分の考え方や取り組みに自信をもち、大切にしようとしている	より良い環境や社会づくりが大切だと思うことがある	課題に関心をもって話し合い、協力して活動しようとされている	友達と話し合い、協力して活動しようとしている	環境に配慮した生活・行動をすることがある	地域や社会の活動に参加することがある
C評価	持続可能な社会づくりの知識や調査スキルはありません	課題を解決するために適切な方法で情報を取得することはあまりない	他者の考え方について考えることはあまりない	自分で決めることはあまりない	課題発見、調査活動、まとめと発信はあまりできていない	分かったことや分からなかったことが曖昧なことがある	自分の考え方や気づきと共に、他者の考え方を理解しようとすることはあまりない	課題が困難だと取り組めないことがある	人権や平和の尊さについて意識することはあまりない	動植物や生態系、環境の大切さはあまり考えたことがない	多様な生き方や社会の中の正しい行きについて考えることはあまりない	自分の考え方や取り組みに自信をもったり、大切にしたりすることはあまりない	環境や社会についてあまり考えていない	課題を自分ごととして捉えたり、活動に参加したりすることはあまりない	協力して活動することはあまりない	あまり環境に配慮することはない	地域や社会の活動に参加することはあまりない

17の評価要素 -OECDの分類について-	17の評価要素 -ポイント解説-	ループリックを活用するにあたり https://www.accu.or.jp/programme/project/rubric_elementary-school/#ele01	奈良県奈良市立平城小学校 新宮 浩	東京都新宿区立西戸山小学校 小野瀬悠里	宮城県気仙沼市立新城小学校 熊谷久恵	兵庫県神戸市立摩耶小学校 阪井園子
https://www.accu.or.jp/programme/project/rubric_elementary-school/#ele03	https://www.accu.or.jp/programme/project/rubric_elementary-school/#ele01	https://www.accu.or.jp/programme/project/rubric_elementary-school/#ele02	https://www.accu.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/03/jissen01_ele.pdf	https://www.accu.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/03/jissen02_ele.pdf	https://www.accu.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/03/jissen03_ele.pdf	https://www.accu.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/03/jissen04_ele.pdf

中学校部会

◆ 中学校部会参加者（敬称略）

柴崎裕子（大田区立大森第六中学校）
柴田康弘（福岡教育大学附属小倉中学校）

小川 亮（北九州市立菅生中学校）
佐野 純（箕面こどもの森学園）

野川理歩（京都市立七条中学校）
市瀬智紀（宮城教育大学 / アドバイザー）

このルーブリックについて（特長、大切にしていること）

本部会で重視したのは、「汎用性」と「自己評価」です。「汎用性」の観点からは、どの学校、どの教科でも使えるよう、まず学習指導要領の「3つの柱」を軸に置いた上で、昨年度事業でまとめた26の評価要素（『変容を捉え、変容につながる評価のカタチ』13-14頁参照）を参考しつつ各項目を構成しました。また、誰にでも見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。一方、「自己評価」を重視したのは、評価を通して子どもたちが前向きに学びに向き合っていけるようなものにしたいとの思いからです。

手法としてはルーブリックが最適と考え、効果測定の指標として数値での回答を求める固定項目とともに、生徒が自らの尺度、言葉で振り返ることができるよう、自分で考えた「評価の観点」を書き込む欄や、自由記述欄を設けました。また、レーダーチャートで可視化することで、学習前後の変化（成長）を視覚的に実感できるようにしました。

本部会では、自己肯定感が学びの土台となり、その部分と向き合って自分の軸を持つことからそれぞれのESDの実践が始まると考え、「学びに向かう力・人間性」、中でも「自己肯定感」を評価要素の一番上に置いています。さらに、ESDにおいては知識を活用して行動に移すことが重要になりますことから、「知識・技能」欄にこれまでのESDの知識や活動に関連づけた「経験知・活動行動歴」を設けたのもポイントです。ただし、より多くの学校で活用いただくためには、学習指導要領の「3つの柱」の記載順や、行動面の評価の取り扱いに対する配慮が必要との判断から、①本事業の独自性を重視したバージョンと②学習指導要領に沿ったバージョンの2種類を作成し、ご利用いただけます。

ESDルーブリック <ユネスコ活動費補助金事業中学校部会版>				
教科【	】 単元【	】	年 組 番	名前【
* 自分自身で、これまでの経験や現在の状態、身に付いた力を評価してみましょう。 * 各項目の「観点」空欄に、自分なりの評価の観点を考えて追加してみましょう。（評価の点数は、評価要素欄（+）に記入する） * 評価の段階： 4.いつもできる 3.ほとんどできる 2.ときどきできる 1.ほとんどできない				
学びに向かう力・人間性	自己肯定感 (+)	観点	評価 (4~1)	合計
		・自分にもできると思うことができる。	4	20
		・自分のできないことも受け入れ、自分が自分でいいと思うことができる。	4	
		・自分の弱みを見せることができ、他者の弱みを多様性として受け入れられる。	4	
		・難しいことでも、失敗を恐れず粘り強く取り組むことができる。	4	
	・自分の長所を生かし、他者と互いに補いながら活動することができる。	4	20	
	・自分の興味関心に目を向けて、学びとつなげようとしている。	4		
	・他者の発言を真剣に聞くようとしている。	4		
	・他者の意見、価値観、個性、背景を尊重し、共感を示したり、意見を述べたりしようとしている。	4		
	・他者の意見に対して批判的な意識を持ちながら、課題を解決しようとしている。	4		
主観的に取り組む態度 (+)	・学んだことを、既習事項や経験と結びつけて考え、日常生活に活かして行動しようとしている。	4	20	
	・持続可能な開発のための目標（SDGs）を知っている。	4		
	・地球規模の具体的な課題があることを理解している。	4		
	・他者に持続可能な開発のための目標（SDGs）を説明している。	4		
	・日常生活でSDGsの目標達成を意識している。	4		
知識・技能	ESDの知識 (+)	・SDGsの目標達成のために行動している。	4	20
		・持続可能性に関する取組について情報検索・情報収集するスキルを身に付けている。	4	
		・収集した情報の分類・分析するスキルを身に付けている。	4	
		・プレゼンや発表のための資料作成に必要なスキルを身に付けている。	4	
		・ICT（PCやタブレット等）を活用するスキルを身に付けている。	4	
	探究の技能 (+)	・外國語を活用している。（海外の資料や情報の検索・収集を含む）	4	20
		・地域や日常生活における課題に気付いた。	4	
		・家族・友人等と課題について話した。	4	
		・課題に気づいて自分の行動を変えた。	4	
		・地域の活動に参加了。	4	
経験知・活動行動歴 (+)	・自分から活動を提案し、他者に影響を与えた。	4	20	
	・学びの中で課題を見出し、考えている。	4		
	・多様な課題に対して自分の考えを持っている。	4		
	・他者との協働によって、自分と他者の考え方の、共通点や相違点を理解している。	4		
	・他の考え方に対して批判的（クリティカル）な視点で、考えを持っている。	4		
思考力・判断力・表現力	見方・考え方 (+)	・自分の考え方を改善し、次の課題の解決につなげている。	4	20
		・現状を分析し、未来の地球的課題を発見している。	4	
		・望ましい未来像を、多面的な視点から情報を分析している。	4	
		・望ましい未来像を、他者と協働して吟味している。	4	
		・望ましい未来像の実現のために、何をどうすべきかを考えている。	4	
	未来を描いて判断する力 (+)	・望ましい未来像の実現のための計画を立てている。	4	20
		・課題を理解し、自分の言葉で語っている。	4	
		・根拠を示し、課題解決のための意見を持っている。	4	
		・誰に対しても、自分の意見を積極的に伝えている。	4	
		・相手に伝わるような説得力のある表現方法を工夫している。	4	
表現力の活用 (+)	・相手の意見を聞き、自分の意見を再考してより良いものにしている。	4	20	

教科【	】 单元【	】	年 組 番	名前【
自由記述欄： ① 成長できたと思うことは何ですか？なぜそう考えましたか？				
② 意識して行動したことは何ですか？なぜそう考えましたか？				
<p>A radar chart with seven axes representing different evaluation criteria. The axes are: 自己肯定感 (+), 主観的に取り組む態度 (+), ESDの知識 (+), 探究の技能 (+), 経験知・活動行動歴 (+), 見方・考え方 (+), and 表現力の活用 (+). The chart shows a pattern where scores are generally higher for subjective attitudes and knowledge, and lower for practical skills and problem-solving.</p>				

◆ ルーブリック作成プロセスにおける気づき

汎用性を意識し学習指導要領に合わせることを検討していく過程は、とても重要な部分でした。汎用性が大事であると同時に、教育の方向性をより良いものにしていくための提案をしていきたい

という思いもあり、汎用性と独自性のバランスについて議論を重ねた結果、2種類のルーブリックを提示するという形になりました。

両ルーブリックの異なる部分に本部会としての価値観を反映するとともに、ルーブリックは各校の実情や指導にあたる先生方に合わせて改変することが可能であるという認識を共有しました。

また、ツールとしての有用性を高める努力と並行して、評価実施者の意識や姿勢も同様に重要だという気づきがありました。

まず教員自身がESDやSDGsについての自分なりの考えを持ち、学び続けることが大切です。そして、この評価は生徒の自己評価であるとともに、教えることの改善にも役立ちます。生徒の変容を知ることは教員の指導の成果を知ること、またルーブリックの結果を分析することで教員の授業改善にも役立つ、という視点を持ち、とにかく評価に取り組んでみることが、ESD実践者の姿勢そのものとも言えるのではないでしょうか。

ルーブリック様式（中学校部会版、学習指導要領版）

https://www.accu.or.jp/programme/project/rubric_junior-high-school/#junior02



ルーブリック使用上のポイント

https://www.accu.or.jp/programme/project/rubric_junior-high-school/#junior01



モデル評価手法を活用した実践紹介

東京都大田区立大森第六中学校 柴崎裕子

https://www.accu.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/03/jissen05_junior.pdf



福岡県福岡教育大学附属小倉中学校 柴田康弘

https://www.accu.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/03/jissen06_junior.pdf



福岡県北九州市立菅生中学校 小川 亮

https://www.accu.or.jp/cms/wp-content/uploads/2022/03/jissen07_junior.pdf



◆ 高等学校部会参加者（敬称略）

黒宮祥男（名古屋国際中学校・高等学校）
上山晋平（福山市立福山中・高等学校）

見目友香（学校法人共愛学園）
松井健太朗（兵庫県立川西明峰高等学校）

松本真紀（奈良県立国際高等学校）
米田謙三（関西学院千里国際中高等部）

八木 誠（立命館宇治中学校・高等学校）
藤井浩樹（岡山大学大学院 / アドバイザー）

児童 / 生徒評価分科会

高等学校部会

ポイント

- ◎ [生徒使用の場合] いろいろな ESD 活動の前後に「ESD 活動自己評価表」を使用することで、生徒にとって自らの自己分析や将来に対する新しい視点を獲得できます。教員は、生徒の自己評価表をチェックすることで、文章評価が必要な場面において生徒の成長要素を明確に発見できるツールになります。
- ◎ [教員使用の場合] 教員自身が生徒の活動前後の素養を記入し、その成長を言語化します。
- ◎ 「文部科学省の学習指導要領における3つの柱」と「ESDの評価要素」（『変容を捉え、変容につながる評価のカタチ』13-14頁参照）と「各学校の育てたい生徒像」を連動させるフォームになっているため、それぞれで評価が必要な時に言語化しやすい形になっています。

◆ フォームの内容・使用法

ESD活動自己評価表

年 組 番 名前

我が校で育みたい 資質・能力	3つの 柱	ESDに関する実践活動で 意識するコンピテンシー (ESDの評価要素)	自己評価表(コンピテンシーを意識しながら記載してみよう。)		
			[活動前]今の自分を振り返り、どんな力が伸びているかを書こう。	[活動後]活動を通じて、自分はどんな力が伸びたかを書こう。	[未来]伸びたい力についてどんな取り組みが必要か、何をしたいかを書こう。
①	知識 技能	持続可能性/SDGsに関する知識・理解・スキル習得	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		持続可能なライフスタイルの実践	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		人権や平和の価値、情報収集・選択・(活用力)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		言語化力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		応用力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		問題解決能力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		意思決定力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		論理的思考力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		創造力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		システム思考力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		批判的思考力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		(情報収集・選択)・活用力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		発信力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		持続可能な地域・国際社会への取組への行動力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②	思考力 判断力 表現力	メタ認知能力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		自己肯定感	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		課題の自分事化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		多様性と共生の尊重	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		学び続ける力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		傾聴力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		リーダーシップ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		責任感	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		公平性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		柔軟性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		困難を乗り越える意思	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		合意形成と協力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		合意形成と協力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		③	④	メタ認知能力	<input type="checkbox"/>
自己肯定感	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
課題の自分事化	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
多様性と共生の尊重	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学び続ける力	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
傾聴力	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
リーダーシップ	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
責任感	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
公平性	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
柔軟性	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
困難を乗り越える意思	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
合意形成と協力	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
合意形成と協力	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

記入欄 :

- (a) 我が校で育みたい資質・能力 ----- 各学校の校風に合わせた育みたい資質や能力を教員が記入します。 ··· ··· ①
- (b) 3つの柱 ----- 文部科学省の学習指導要領に準拠した力
- (c) ESDに関する実践活動で意識するコンピテンシー (ESDの評価要素) ----- 3つの柱と相関性があるESDの評価要素
- (d) ESD活動自己評価表 ----- 生徒（教員）は、ESDに関する活動実施前後に言語化します。
 - [活動前] ESDに関する授業実施前に自己分析（教員による分析）を行います。 ··· ··· ②
 - [活動後] 授業実施後に成長した要素を記入します。 ··· ··· ③
 - [未来] 授業実施後にどのようなESD要素を伸ばす必要があるかを記入します。 ··· ··· ④

ESD評価要素の内容

3つの柱	ESDに関する実践活動で意識するコンピテンシー (ESDの評価要素)	評価要素の内容 (高等学校課程)
知識 技能	持続可能性/SDGsに関する知識・理解・スキル習得	SDGs・社会課題に対して解決できるアイデアを創出できる力。社会とのつながり、協働を通して研究をおこなうことができる力。
	持続可能なライフスタイルの実践	社会問題への関心を持ち、自らが世界を担う人材であることを自覚すること。日常生活の中からサステナブルな取組を実践すること。
	人権や平和の価値、情報収集・選択・(活用力)	その人らしく生きていくための価値、平和を守り続ける大切さを理解すること。そこなど目に見えないものを想像する力。目的に応じて情報を適切に取捨選択し、選択した情報をわかりやすく再構成して伝えることのできる力。実際に人に会い、出かけ、現実社会のリアリティから真の情報を得る力。
	言語化力	自分の考えたことを言語を用いて発信することができる力。自分とは違う意見に対して、言語活動を通して理解を深めていく力。論理的に自他の意見を文章・発表などで表現することができる力。
	応用力	同じ類型やつながりを見出す力。現実社会、現実生活に反映する力。物事の構造（構成要素間の関係性）を把握する力。
	問題解決能力	自分でできることを考え、言葉にして共有、拡散させることのできる力。課題を発見、理解し、解決するための方法を導き出したための力。原因を分析、情報を正確に理解し、適切に対処するためのよりよい改善策を提案する力。それらを改善し、次の行動につなげる力。
	意思決定力	自らで考え、物事を選択していく力。判断するために複数の情報から取捨選択し、自らの意志や決断に責任を持つ力。
	論理的思考力	原因⇒結果と思考をつなげる力。問に対する答えに一貫性を見出す力。単に主張だけではなく、その根拠となる理由を明確にする力。
	創造力	新しい価値や考えを生み出す力（既存の知識を活かし、組み合わせる力）。すでにあるものに対する知識を得た上で、自らの研究や調査から自分のアイデアを創り出す力。独自の世界観をもつこと。自分と違う意見にも共感することができる力。
	システム思考力	一つの問題に含まれる多様な要素のつながりを理解する力。短期的な視点による対応的な行動ではなく、長期的な視点による根本的な問題解決ができる力。全体像を捉えた上で中心的な問題を把握しバランスのよい意志決定ができる力。
思考力 判断力 表現力	批判的思考力	他者の意見や考えも受け入れ、客観的に物事を判断する力。物事を論理的・多角的、客観的に捉える力。相手の発言に耳を傾け、証拠や論理、感情を的確に解釈することができる力。
	(情報収集・選択)・活用力	情報と情報を組み合わせて新しい価値を生み出す力（非連続テキストの読解力）。
	発信力	自分の意見や考えを相手に分かりやすく伝える力。対話に限らず、コミュニケーションツールを活用する力。
	持続可能な地域・国際社会への取組への行動力	地域・国際社会へ自分の考えを発信することができる力。
	メタ認知能力	他者の目標に立ち問題を理解する力。心のつながりをつくる力（同情から共感へ）。自分の言動を客観視でき、それを自ら改善するためのストーリーを持つことができる力。
	自己肯定感	自分の弱みを見せられる力。他人の弱みを多様性として受け入れられる力。
	課題の自分事化	自分の進路とつなげ、課題の要素を含めながら検討することができる力。課題解決のアイデアやプランをもち、将来実行しようと計画を立てる力。
	多様性と共生の尊重	歴史や文化などの知識を身につけた上で、多様な価値観があることをを知る力。寛容な心や思いやり、教養を持って違いを受入れる力。多様なものをつなぐ普遍性に目を向けることができる力。
	学び続ける力	どんな環境でも自ら課題を見つけ、解決に取り組むことのできる力。課題を解決していく際、新たな問題にも気が付くことができる力。
	傾聴力	相手の気持ちに寄り添いながら話を聞く力。他者の表情を読み取り、相手の意志を受け入れる姿勢をもつ力。自分と相手の立場の相違点を認識する力。
学びに 向かう 力 人間性	リーダーシップ	多様性の中から共通点を見出し前に進む力。他者の参加を促す力。人徳があり、挑戦していく心をもつこと。責任をもつこと。
	責任感	期限内に完成させる力。成功も失敗も初めから終わりまですべて受け入れ、理解し、自信を持って発信する力。
	公平性	人と他人の人権を通じた公平性の理解。「公平」や「平等」に関する歴史的事象や現代社会の課題への理解。「公平」や「平等」に関する知恵を得た後に考え、議論していくことができる力。
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解し、場面に応じた適切な対応を行うことができる力。失敗に対して素早く修正・改善することができる力。
	困難を乗り越える意思	ソーシャルキャビタルを意識しながら他人を信じること。具体的な事例をもとに自分の行動について考えることができる力。
	合意形成と協力	多様な意見を傾聴する力。結論を急がず他者の意見を持つ力。組織内（グループやコミュニティなど）での役割を理解し組織を活性化させる力。

説明欄 : ESDに関する実践活動で意識するコンピテンシー (ESDの評価要素) の説明表をつけます。ESD要素について理解を深める必要がある場合、この表について説明する時間を設けます。

その他 : 本フォームは、各学校の活動に応じて、フォームを最適化して使用することができるよう配慮しました。例えば、学齢に合わせてESDの要素を選択あるいは少なくすることで生徒が記入しやすいフォームになります。

部会での話し合いの様子

議論の過程で右記のような意見が出ました。

- 評価・成績という言葉でなく、ポートフォリオ、セルフチェックなどがESDらしい表現であり、「自分を振り返る、見つめ直す」「先生や友達同士で見せ合う」という活動で、さらなる意見交換や気づきが生まれるのではないか。
- 他者評価は、相手との関係性が第一に大切である。また、自分自身を知っている、知っていない、どのような人間性を持っているのかなど具体的な要素の把握が必要ではないか。